

人間環境学部

【2024 年度大学評価総評】

人間環境学部は、「激動する 21 世紀の多様な課題を解決し、『持続可能な地球社会の構築』に貢献する」役割を中心的に担うことを理念・目的と設定している。その学部理念の元、学部長期構想「人間環境学部 2030~For Our Sustainable Future~」に記されたコアミッションに基づき、コロナ後、ウクライナ戦争後等の社会環境を踏まえつつ、フィールドスタディとキャリアチャレンジの計 12 コースを実施した点は、持続可能な社会の構築に向けた「実践知」の修得という観点から大いに評価できる。教育課程については、学位授与方針に従って学生の育成に必要な教育課程が適切に編成されており、カリキュラムの充実化に向けて学部教授会や各種委員会において検証・検討作業が継続的に行われており、PDCA サイクルが適正に運用されていると評価できる。学生支援については、2022 年度末に開設した新年度スタートアップサイトを維持・改良しつつ、新入生の支援とリテンションを図る取り組みや、ラーニングサポーター制度を利用した社会人リフレッシュ・ステージ・プログラム (RSP) の学生の支援、英語学位プログラム (Sustainability Co-creation Programme) (SCOPE) の学生のピアサポートを実施するなど学生支援の充実が見られる。その他、内部質保証、学生の受け入れ、教員・教員組織、社会貢献・社会連携における 2023 年度目標の達成度はすべて良好であり、適切に運営されている。今後も文理融合であり特定の分野の枠に収まらない学部教育を掲げる学部として、学部教育の追求、整備がなされることを期待する。

大学基準協会の第 4 期大学基準に基づいた評価項目の充足状況の確認

2024 年度自己点検・評価シートに記載された
I 現状分析を確認

すべての評価項目で「はい」が選択されており、充足していることが確認できた。

【2024 年度自己点検・評価結果】

I 現状分析

基準 1 理念・目的

1.1 大学の理念・目的を適切に設定すること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。

1.1①学部（学科）ごとに、大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を明らかにしていますか。	はい
1.1②学部（学科）ごとに、人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）を学則又はこれに準ずる規則等に明示し、かつ教職員及び学生に周知し、社会に対して公表していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境学部ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・「人間環境学部について」 https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/shokai/ ・「人間環境学部の教育理念・目的」 https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/shokai/rinen_1/ ・人間環境学部パンフレット ・人間環境学部履修の手引き ・法政大学学則別表 (11) 	

基準 2 内部質保証

2.1 内部質保証のための方針を適切に設定していること。また、教育の充実と学習成果の向上を図るために、内部質保証システムを整備し、適切に機能させていること。

2.1①学部において、学部長及び教授会・委員会等の役割や責任を明確にした規程を整備し、規程に則った運営が行われていますか。	はい
2.1②学部において、質保証委員会を設置し、自己点検評価結果を活用して改善・向上に取り組んでいますか。	はい
【根拠資料】	

- ・法政大学人間環境学部教授会規程
- ・学部規則・申し合わせ事項 A-01～A-05、B-01～B-31、G-01～G07
- ・2023 年度第 2 回教授会審議「2023 年度自己点検・評価シート・年度目標案について」資料 2 および議事録
- ・2023 年度第 12 回教授会審議「自己点検年度目標達成状況報告書（案）について」資料 7 および議事録
- ・2023 年度第 10 回教授会報告「戦略構想推進委員会」資料 21「人間環境学部 2030 リーディング・プロジェクト中間評価（案）」および議事録
- ・質保証委員会資料
- ・各種委員会資料

基準 3 教育研究組織

部局による自己点検・評価は実施しない

基準 4 教育・学習

(1) 教育課程・教育内容

4.1 達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

4.1①授与する学位ごとに、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしていますか。	はい
4.1②授与する学位ごとに、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）において、学習成果を達成するために必要な教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針を明確にしていますか。	はい
4.1③また、カリキュラム・ポリシーにおいて、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしていますか。	はい
4.1④上記の学習成果は授与する学位にふさわしいですか。	はい

【根拠資料】

- ・人間環境学部ホームページ
 - ・「カリキュラム・ポリシー」
<https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/shokai/policy/curriculum/>
- ・人間環境学部パンフレット
- ・人間環境学部履修の手引き
- ・新入生ガイダンス配布資料

4.2 学習成果の達成につながるよう各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

4.2①授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目を開講していますか。	はい
4.2②各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化をしていますか。	はい
4.2③「法政大学学則」第 23 条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
4.2④学生の学習時間の考慮とそれを踏まえた授業期間及び単位の設定を行っていますか。	はい
4.2⑤学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化を行っていますか。	はい

【根拠資料】

- ・人間環境学部パンフレット
- ・新入生オリエンテーション配布資料、新年度ガイダンス配布資料
- ・人間環境学部履修の手引き
- ・シラバス
- ・シラバス作成ガイドライン
- ・カリキュラム・マップ

<https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2022jinkancurriculummap.pdf>
<https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2022jinkancurriculummapscope.pdf>
 ・カリキュラム・ツリー
<https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2022jinkancurriculumtree.pdf>
<https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2022jinkancurriculumtreersp.pdf>
<https://hosei-keiji.jp/wp-content/uploads/2022jinkancurriculumtreecourse.pdf>

(2) 教育方法・学習方法

4.3 課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

4.3①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
4.3②それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業たりの学生数が配慮されていますか。	はい
4.3③授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及びカリキュラム・ポリシーに応じたものであり、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3④ICTを利用した遠隔授業は「2023年度授業実施方針について」に沿って、適した授業科目に用いられていますか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られていますか。	はい
4.3⑤学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応を行っていますか。	はい
4.3⑥単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置を行っていますか。	はい
4.3⑦シラバスの作成と活用をしていますか、また学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容になっていますか。	はい
4.3⑧授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等の措置を行っていますか。	はい

【根拠資料】

- ・人間環境学部ホームページ
 - ・「カリキュラム・ポリシー」
<https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/shokai/policy/curriculum/>
 - ・「各科目について」
https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/zaigakusei/class_information/2024/
 - ・「新年度スタートアップサイト」
<https://sites.google.com/adm.hosei.ac.jp/ssstartupwebsite/home?authuser=1>
- ・人間環境学部履修の手引き
- ・人間環境学部ホームページ
 - ・「ゼミ紹介」<https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/seminar/2024/>
- ・各種ガイダンス配布資料
- ・シラバス
- ・シラバス作成ガイドライン
- ・2023年度第12回教授会報告「2023年度シラバス第三者チェックについて」および議事録
- ・2023年度第13回教授会報告「シラバス第三者確認結果について」および議事録
- ・「2023年度授業改善アンケート集計結果」
- ・人間環境学部早期卒業に関する規程
- ・2023年度第2回教授会報告「成績不振者面談の実施について」
- ・2023年度第13回教授会審議「2024年度学修指導制度対象者（成績不振学生・進路指導学生）の基準について」資料3および議事録

4.4 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

4.4①成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施していますか。	はい
---	----

4.4②成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示していますか。	はい
4.4③「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
4.4④「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき卒業・修了の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
4.4⑤学位授与における実施手続及び体制が明確になっていますか。	はい
4.4⑥ディプロマ・ポリシーに則して、適切に学位を授与していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学ホームページ <ul style="list-style-type: none"> ・「卒業要件」 https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/sotsugyo_yohken/ ・「成績評価基準及びGPA制度について」 https://www.hosei.ac.jp/hosei/disclosure/acquire/seisekihyoka_gpa/ ・人間環境学部ホームページ「新年度スタートアップサイト」 https://sites.google.com/adm.hosei.ac.jp/ssstartupsite/home?authuser=1 ・各種ガイダンス配布資料 ・人間環境学部履修の手引き ・シラバス ・2023年度第4回教授会報告「卒業生成績調査について」資料10および議事録 ・2023年度第5回教授会審議「採点訂正について」回覧資料2および議事録 ・2023年度第13回教授会審議「採点訂正について」回覧資料3および議事録 ・ ・単位認定に関する資料（2023年度第7回教授会審議「単位認定について」回覧資料2および議事録 	

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5①授業改善アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5②入学前アンケート及び卒業生アンケートの結果を組織的に活用していますか。	はい
4.5③学修成果可視化システム（Ha1o）を組織的に活用していますか。	はい
【具体的な活用事例】	
<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善アンケートの全学集計結果報告書を教授会で共有し（2023年度第5回教授会資料8「2022年度学生による授業改善アンケート」全学集計結果報告書について）、他学部の追加質問等を参考にしつつ、今後の学部としての調査方針を検討した。 ・授業改善アンケートとは別に、初年次の必修科目である「人間環境学への招待」において、独自のアンケートを行い、その結果について教授会で共有した（2023年度第1回教授会報告「2022年度（学部）1年生アンケート調査結果について」資料8および議事録）。 ・2022年度卒業生アンケートおよび2023年度卒業生アンケートの調査結果を教授会で共有し（2023年度第5回教授会資料10、11）、概ね高い評価を得ているが、とりわけ、ゼミ（研究会）の意義が大きいように思われ、今後の教育方針の設定の際に重要な考慮要件となることが確認された。 ・2022年度秋学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について、教授会で共有し（2023年度第2回教授会資料8「2022年度秋学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について」）、概ね例年通りの結果が出ていることが確認された。 ・2023年度春学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について、教授会で共有し（2023年度第7回教授会資料12「2023年度春学期「学生による授業改善アンケート」の実施結果について」）、概ね例年通りの結果が出ていることが確認された。 ・Ha1oについては、その利用方法や意義を教員間で改めて確認した。（2023年度第5回教授会報告「学修成果可視化システム（Ha1o）機能利用の要望聴取結果について」資料14および議事録） 	

基準5 学生の受け入れ

5.1 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

5.1①学位課程ごとに、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）を設定していますか。	はい
5.1②上記のアドミッション・ポリシーは、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示していますか。	はい
5.1③アドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施していますか。	はい
5.1④入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備していますか。	はい
5.1⑤すべての志願者に対して分かりやすく情報提供していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境学部ホームページ ・「アドミッション・ポリシー」 https://www.hosei.ac.jp/ningenkankyo/shokai/policy/admission/ ・「Admission」 https://scope.hosei.ac.jp/admission/ 	

5.2 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

5.2①【2024年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均と収容定員充足率は、下記の表1の数値の範囲内ですか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2024年度入試結果（2024年度第1回教授会審議「入試について」資料3および議事録） ・入学試験要項 	

表1

学部・学科における入学定員充足率の5年平均	0.90以上1.20未満
学部・学科における収容定員充足率	0.90以上1.20未満

基準6 教員・教員組織

6.1 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

6.1①学部の教員組織の編制は、「人材育成その他の教育研究上の目的（教育目標）」、「求められる教員像及び教員組織の編成方針」に整合していますか。	はい
6.1②教員が担う責任は明確になっていますか。	はい
6.1③法令で必要とされる数は充足していますか。	はい
6.1④科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成となっていますか。	はい
6.1⑤各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理をしていますか。	はい
6.1⑥教員は職員と役割分担し、それぞれの責任を明確にしながら協働・連携することで、組織的かつ効果的な教育研究活動を実現していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学部規則 A-01 「人間環境学部人事規則」 ・学部規則 A-02 「法政大学人間環境学部長選出規則」 ・学部規則 A-03 「人間環境学部任期付き教員採用に関する規則」 ・学部規則 A-05 「人事に関する細則」 ・学部申し合わせ事項 B-01 「教授会の決議に関する覚書」 ・学部申し合わせ事項 B-02 「兼任・兼任教員への委嘱に関する申し合わせ」 ・学部申し合わせ事項 B-04-1 「専任教員の昇格に関する申し合わせ」 ・学部申し合わせ事項 B-06 「専任人事の進め方に関する覚書」 ・学部申し合わせ事項 B-07 「学部長の任期等について」 ・学部申し合わせ事項 B-09 「兼任教員の採用基準に関する申し合わせ」 	

・人間環境学部時間割

6.2 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

6.2①教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っていますか。	はい
6.2②年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っていますか。また、性別など教員の多様性に配慮していますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学部規則 A-01 「人間環境学部人事規則」 ・学部規則 A-02 「法政大学人間環境学部長選出規則」 ・学部規則 A-03 「人間環境学部任期付き教員採用に関する規則」 ・学部規則 A-05 「人事に関する細則」 ・学部申し合わせ事項 B-01 「教授会の決議に関する覚書」 ・学部申し合わせ事項 B-02 「兼任・兼任教員への委嘱に関する申し合わせ」 ・学部申し合わせ事項 B-04-1 「専任教員の昇格に関する申し合わせ」 ・学部申し合わせ事項 B-06 「専任人事の進め方に関する覚書」 ・学部申し合わせ事項 B-07 「学部長の任期等について」 ・学部申し合わせ事項 B-09 「兼任教員の採用基準に関する申し合わせ」 ・人間環境学部専任教員一覧 	

基準7 学生支援

7.1 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備し、適切に実施していること。

7.1①学生が能力に応じて自律的に学習を進められるようサポートする仕組みを整備していますか（補習教育、補充教育、学習に関わる相談等）。	はい
7.1②障がいのある学生や留学生の実態に応じ、それらの学生に対する修学支援を行っていますか。	はい
7.1③学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）に対し、その実態に応じて対応していますか。	はい
7.1④ICTを利用した遠隔授業を行う場合にあっては、自宅等の個々の場所で学習する学生からの相談に対応するなどの学習支援を行っているか。また、学生の通信環境へ配慮した対応（授業動画の再視聴機会の確保等）を必要に応じて行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・学部ガイダンス配布資料 ・人間環境学部履修の手引き ・2023年度第3回教授会報告「成績不振学生面談について」および議事録 ・2023年度第9回教授会報告「成績不振学生面談について」資料11および議事録 ・2023年度第13回教授会審議「2024年度学修指導制度対象者（成績不振学生・進路指導学生）の基準について」資料3および議事録 ・学生相談室からの依頼文書 	

基準8 教育研究等環境

8.1 研究活動に関わる支援、条件整備を通じ、研究活動の促進を図っていること。また、健全な研究活動のために必要な措置を講じていること。

8.1①「法政大学研究倫理規程」に沿って、学生も含めて研究倫理の遵守を図る取り組みを行っていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学研究倫理委員会規程 ・法政大学研究開発センター「コンプライアンス研修会動画」 <ul style="list-style-type: none"> ・https://www.hosei.ac.jp/suisin/gakunaisha/compliance/ ・B-30_法政大学人間環境学部研究倫理確認の手続きに関する内規 ・人間環境学部ホームページ「新年度スタートアップサイト」 	

- ・研究倫理講座
<https://sites.google.com/adm.hosei.ac.jp/ssstartupwebsite/step2?authuser=1>

基準 9 社会連携・社会貢献

9.1 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。

9.1①「研究及び社会貢献に関する方針」のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っていますか。	はい
9.1②社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっていますか。	はい
【根拠資料】	
<ul style="list-style-type: none"> ・法政大学学術データベースの社会貢献活動欄 ・フィールドスタディ実施一覧および報告会議事録 ・2023年度第10回教授会審議「地域連携の取り組みについて」資料12および議事録 	

基準 10 大学運営

部局による自己点検・評価は実施しない

上記の現状分析結果において、【いいえ】と回答した項目があった場合は、その理由と改善計画について記入してください。

大学基準	【いいえ】と回答した点検・評価項目を記述してください
基準を選択してください	
【いいえ】と回答した理由と、改善の必要がある場合、改善計画について記述してください。	

II 改善・向上の取り組み

1 2023年度 大学評価委員会の評価結果への対応

<p>【2023年度大学評価結果総評】（参考）</p> <p>教育課程と学習成果に関する各種取り組みについては、学部の特色を生かした様々な活動が行われていることを客観的に把握できるようになっている点が評価できる。人間環境学部のカリキュラムの社会連携を実現する上での主要な活動として「研究会」、「フィールドスタディ」、「キャリアチャレンジ」、「人間環境倶楽部」があり、自己点検・評価シートの教育方法において特色として挙げられている。2022年度フィールドスタディとキャリアチャレンジのコース数、定員数はコロナ禍で縮小した2021年度のおよそ1.5倍に持ち直している。研究会は千代田区との連携の元に活動しており、学外との多くの交流の中で研究や教育で得た知見を社会に還元している。今後はその活動で得た評価をどのように取り組みに反映させていくかが望まれる。</p> <p>2022年度はカリキュラム・基本制度委員会でカリキュラムマップ・カリキュラムツリーを改訂し、各授業科目に設定されているDPの見直しが行われた。質保証委員会の所見や、自己点検・評価シートの学習成果で課題として挙げられているが、DPの達成のための学習成果の可視化の方策や新たな指標の設定等について、引き続き議論と検討が望まれる。</p> <p>人間環境学部の特色であるフィールドスタディや人間環境セミナー等の社会連携科目はコロナ禍の影響が大きかったが、2022年度はコロナ後を見据えて年度目標を確実に遂行しており評価できる。さらに今後コロナ禍のようなショックにも柔軟に対応できるようなカリキュラムについて検討を開始しており今後に期待したい。</p>
<p>【2023年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】</p> <p>人間環境学部のカリキュラムの特色である社会連携科目が高く評価されているが、その取り組みの一つであるフィールドスタディについては、2024年度は学部専任教員、任期付教員のほぼ全員が担当し、コロナ禍以前の規模に回復しつつある。特に、海外フィールドスタディが復活したことで、国際性・多様性・持続可能性をテーマとした学習の幅が再び広がった。これに加え、引き続き、キャリアチャレンジ、千代田区との連携活動、外部講師を招聘して行う人間環境セミナーを通じて、実務家との交流の機会を</p>

提供し、社会貢献に対する意識の向上を促す取組を継続する。

ディプロマ・ポリシーの達成のための学習成果の可視化の方策としては、研究会修了論文集の出版補助、人間環境学への招待で行っている学部独自アンケートの結果の分析を引き続きすすめていきたい。

今後の非常事態への柔軟な対応のための方策については、教員の過度な負担が問題となるため、カリキュラム基本制度検討委員会を中心に、戦略構想委員会や教授会でも、引き続き検討を行う。

2 各基準の改善・向上

基準4 教育・学習

4.5 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

4.5④アセスメントポリシー（学習成果を把握（測定）する方法）は、ディプロマ・ポリシーに明示した学生の学習成果を把握・評価できる指標や方法になっていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.5⑤アセスメントポリシーに基づき、定期的に学生の学習成果を把握・評価していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

4.6 教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

4.6①学習成果の把握・評価の結果に基づいて、教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しをしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6②教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置に関する適切性の確認や見直しの基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
4.6③教育課程及びその内容、方法、学生の主体的、効果的な学習のための諸措置について、外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、適切性の確認や見直しの客観性を高めるための工夫をしていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A（概ね従来通りである又は特に問題ない）
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準5 学生の受け入れ

5.3 学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

5.3①学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握していますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
5.3②点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

基準6 教員・教員組織

6.3 教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

6.3①学部内で教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につながる組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		
6.3②学部内で教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ていますか。	S. さらに改善した又は新たに取組んだ A. 概ね従来通りである又は特に問題ない B. 更なる改善が必要な点がある又は改善を困難とする要因がある。	A (概ね従来通りである又は特に問題ない)
上記項目について【SまたはB】と回答した場合は、その内容について記述してください。 Sの場合は、改善した取り組みや新たな取り組み、成果を記述してください。 Bの場合は、改善計画又は改善を困難とする要因について記述してください。		

III 2023年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	理念・目的	
中期目標	学部長期構想に記載した理念・目的を確認する。	
年度目標	○コロナ禍後の学部長期構想と戦略目標の見直しを検討する。 ○学部の理念・目的・コース制を点検し、必要であれば修正する。	
達成指標	○カリキュラム基本制度委員会、戦略構想推進委員会の適時適切な開催 ○学部長期構想文書の改定と公表(必要に応じて) (教授会議事録、各種会議議事録、学部ホームページ)	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・戦略構想推進委員会を2回、カリキュラム基本制度検討委員会を4回実施し、また、コース別ミーティングを3つのグループに分かれて開催した。

報告		<ul style="list-style-type: none"> 戦略構想推進委員会では学部の長期構想を見直し、人間環境学部 2030 のリーディングプロジェクトの中間報告を行うとともに新たな社会連携プロジェクトを提案した。また、フィールドスタディと人間環境セミナーの長期的なあり方を議論した。 カリキュラム基本制度検討委員会において、カリキュラム改革案の作成を進めた。 カリキュラム基本制度検討委員会委員が幹事となってコース別ミーティングを開催し、カリキュラム改革案の内容を教員全員で共有するとともに各コースを点検した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・執行部の自己評価で問題ない。
	改善のための提言	・改善が必要な点は見当たらない。
評価基準	内部質保証	
中期目標	適正な PDCA サイクルの運営を継続する。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○質保証委員会を通じた内部質保証の運用を継続する ○コロナウィルス感染症再流行の懸念が払拭されない限り、引き続き BCP に基づいた適切な学部運営を進める。 ○特定の教員の過度な負担を避ける体制／業務方法作りの工夫を検討／実施する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○質保証委員会の適時適切な開催（議事録） ○教授会、「ディーセントワークプロジェクト」など各種会議での決定事項（各種会議議事録） 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・質保証委員会を従来通り 1 回開催した。 ・第 1 回教授会において、BCP に基づく学部運営方針を確認した。 ・ディーセントワークプロジェクトを招集・開催するほどまでには至らなかったが、教授会においてライフイベントにとまなう業務上の配慮について議論した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部の自己評価で問題ない。 ・教職員の業務負担の軽減や均等化ならびに配慮についての検討が不十分と思われる。
改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・BCP による危機管理が機能するか否かは実際にインシデントが発生して初めて明らかになる場合もあるため、長期にわたって運用を継続することが必要である。 ・人的リソース活用について粘り強く検討を継続していただきたい。 	
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	学部長期構想に記されたコアミッションに基づき、コロナ後、ウクライナ戦争後等の社会環境を踏まえつつ、持続可能な社会の構築に貢献するための教育を実践する。また、同じく長期構想にて定義された「教育におけるミッション」を踏まえ教育内容のさらなる改善をすすめる。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍においては社会連携科目のいくつかで実施規模が縮小したことから、前年度に引き続いてそれらの回復に努める。 ○同上の事由により、感染症のような外的要因によるショックに柔軟に対応できるカリキュラムについて検討する。 ○専門分野が近い教員同士だけでなく、学際学部の強みを活かして、専門分野が異なる教員同士が協働する機会の拡充をはかる。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○教授会、戦略構想推進委員会、カリキュラム基本制度委員会での議論（会議議事録） ○社会連携科目に関する各種委員会（FS/CC 委員会、人環セミナー企画委員会）等での議論とその結果の実施状況 ○複数教員協働の機会実現（人間環境学への招待、人間環境セミナー、フィールドスタディ、文献執筆、その他イベント等） 	

年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・人間環境学への招待は4名の世話人による企画・立ち会いのもと、毎回専任教員2名以上が分担して実施した。 ・3種類の人間環境セミナーを開講した。そのいずれもが学部教員と外部講師の協働により実施された。 ・フィールドスタディ（SCOEP科目のField Workshopを含む）とキャリアチャレンジは計12コースを実施し、そのうちの5コースが複数教員の協働で行われた。 ・FS/CC委員会ならびに戦略構想推進委員会においてフィールドスタディの長期構想について議論した。 ・カリキュラム基本制度検討委員会において、感染症蔓延によりフィールドスタディなどが実施できなくなった場合でも、学生の履修トラブルを回避するような仕組みを提案し、コース別ミーティングにおいて全教員と共有した。 ・戦略構想推進委員会での研究会の社会連携活動補助制度の提案を受け、その制度設計を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部の自己評価で問題ない。 ・コロナ禍のようなインシデントにも対応可能なカリキュラム案の検討が進んでいることは評価できる。
	改善のための提言	<ul style="list-style-type: none"> ・まだフィールドスタディのコース数がコロナ禍以前の水準に戻りきっていないが、その増加を期待するとともにカリキュラム改革を前進させていただきたい。
	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
	中期目標	持続可能な社会の構築に向けた「実践知」の修得のため、多様な主体と協働しつつ、主体性をもって学ぶ姿勢を強化する教育を推進する。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○本学部の特色ある科目であるフィールドスタディ、フィールドワークショップ、キャリアチャレンジ、研究会へのより一層積極的な参加を学生に促す。 ○コロナ禍においてオンライン・ハイフレックス・オンデマンドの授業方法を経験したことを活かし、それらの長所が各授業の条件にフィットすれば対面以外の授業方法へも柔軟に切り替えることができる体制を検討する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○フィールドスタディなどの各種説明会の開催 ○カリキュラム基本制度委員会での議論（会議議事録） ○各教員の個別の工夫を発表し、学部内外のFDによる知見と合わせ、学部として共有する機会の確保（教員懇談会の開催など） 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドスタディ・キャリアチャレンジの応募説明会を開催した。教室からあふれるほどの参加者（参加学生500名超）があり、多くの学生がフィールドスタディ・キャリアチャレンジに興味を持ち、楽しみにしていることが明らかとなった。 ・カリキュラム基本制度検討委員会において、策定中のカリキュラム改革案へのフィールドスタディ・キャリアチャレンジの組み込み方を検討した。 ・研究会の応募説明会を開催した。1年生の研究会Aの応募者数は累計約540名にのぼり、昨年より約200名増となった。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部の自己評価で問題ない。 ・本学部の重要科目についての説明会を開催し、コロナ禍によるネガティブなムードから脱するとともに、学生の意欲を引き出したことは評価できる。
改善のた	<ul style="list-style-type: none"> ・改善が必要な点は見当たらない。 	

	めの提言	
	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
	中期目標	文理融合でありかつ特定の分野の枠に収まらない教育課程に対し、いかなる学習成果の把握、可視化の手法があるのか、グッドプラクティスを積み上げつつ体系化を目指す。
	年度目標	○学部の学際性に鑑み、科目のそれぞれの特色に応じて学習成果を測定できるような指標・基準やツールの考案に努める。
	達成指標	○各種委員会等での議論とその結果の実施状況（特にカリキュラム基本制度委員会） ○具体的な成果把握の方法や工夫を教員が発表し共有する機会を確保する（教員懇談会の開催など）
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	・カリキュラム基本制度検討委員会において、カリキュラムマップ・カリキュラムツリー・ナンバリングを見直したが、昨年度に改訂したばかりであることから、本年度の変更は見送った。 ・カリキュラムの点検を目的として、HALO を用いた学習成果の可視化を試みた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・執行部の自己評価で問題ない。 ・カリキュラム基本制度検討委員会においては学習成果可視化ツール HALO を試用したとのことだが、ほとんどの教員は未利用であり、HALO を使うことのメリットが見えていないと思われる。
	改善のための提言	・HALO にできることやその使い方について周知していただきたい。 ・本学部は学際学部であることから、独自の学習成果の測定方法についてもさらに検討していただきたい。
	評価基準	学生の受け入れ
	中期目標	2016 年度に策定した入試戦略に基づき、18 歳人口の減少を迎える 2018 年以降の社会環境において、定員超過に留意しつつ定員の充足に努める。
	年度目標	○広報・社会連携活動により、学部ホームページ、Web パンフレット、学部紹介動画、模擬授業、イベント開催など各種の手法を駆使して、学部の魅力を発信し、高大連携を推進する。 ○RSP、SCOPE の両プログラムについては、定員確保に一層留意する。
	達成指標	○広報活動実績（学部ホームページ、学部紹介動画、広報・社会連携委員会議事録） ○RSP、SCOPE 志願者数、入試実績、相談会の実施
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・広報・社会連携委員会において、昨年度に引き続き、学部の魅力を紹介・発信する動画をさらに新しく作成した。また、模擬授業により社会連携・高大連携の活動を推進した。 ・昨年度より自己推薦入試を専願化したため、本年度においても入学者数を定員（20 名）に漸近させることが可能となり、また、本学部のアドミッションポリシーにマッチする受験生の割合が高まった。 ・オープンキャンパスにおいて、RSP 入試・編入についての相談会を教員と RSP 在学生とで実施し、参加者数は 9 名であった（昨年は 2 名）。 ・RSP では入学定員 7 名に対して 3 名の入学者、編入定員 10 名に対して 12 名の編入者があった。 ・SCOPE 入試では、定員 20 名に対して 12 名の入学者があった。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・執行部の自己評価で問題ない。

	改善のための提言	・SCOPEの入学者が増えていないことから、指定校を見直すことを検討していただきたい。
	評価基準	教員・教員組織
	中期目標	学部長期構想および学部人事戦略に基づき、適切な教員組織の維持を図る。また、持続的なFD活動を実施し、イノベーションの基盤の整備に努める。
	年度目標	○2023年度中に、専任教員2名、SCOPE任期付専任教員1名を採用する。その際、全体の人員バランスも考慮した適切な採用に努める ○授業相互参観を利用したFD活動を継続する。 ○教員の負担の軽減／公平化に引き続き努める。
	達成指標	○採用枠充足状況 ○教員による授業相互参観実施状況報告書 ○「ディーセントワークプロジェクト」など各種会議での決定事項（各種会議議事録）
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・専任教員人事を行い、3名（専任教員2名、SCOPE任期付教員1名）が2024年4月着任予定である。 ・授業実施の方式や工夫に関するアンケートを実施し、結果を教授会で共有した。 ・ディーセントワークプロジェクトの考え方に基づき、オンライン授業を活用して負担を軽減したり、入試監督の割り当てを配慮した。 ・FD活動として、新任教員が他の教員の研究会を参観し、意見交換を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・執行部の自己評価で問題ない。
	改善のための提言	・次年度も専任教員ならびに兼任講師の採用人事があると思われるが、着実な準備と審査によって成功させ、学部の人的リソースがさらに強化されることを期待する。 ・教員構成におけるジェンダーバランスの改善を意識した人事を継続していただきたい。
	評価基準	学生支援
	中期目標	多様な学生のニーズを念頭におき、学習支援、生活支援を組織的に実施する。
	年度目標	○2022年度末に開設した新年度スタートアップサイトを維持・改良しつつ、特に新入生の支援とリテンションを図る。 ○学習指導委員会を活用して、学生の学業不振や生活の乱れのシグナルをキャッチし、予防的な指導をおこなう。 ○ラーニングサポーター制度を利用したRSP学生の支援、SCOPE学生のピアサポートを引き続き実施する。
	達成指標	○成績不振学生面談の報告 ○教授会議事録 ○ラーニングサポーター制度実施状況報告 ○学部ホームページ
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・新年度スタートアップサイトの運用を維持し、特に新入生のスムーズな履修を支援した。また、閲覧回数のログを基にその有効性を確認した。 ・6月に2～4年生を、10月に1年生を対象とする成績不振者面談をそれぞれ行った。 ・成績不振者面談は執行部、学習指導委員会、学部事務が共同で実施し、成績不振学生の状況把握とアドバイスにつとめた。昨年度に比べて、面談実施学生数の面談対象学生数に対する割合が向上した。また、面談によって得られた学生の全体状況や傾向に関する知見を教授会で共有した。 ・RSP運営委員会が年度初めにRSP新入生・新編入生と在學生との顔合わせ会を開催し

		<p>た。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4名のRSP生が一人当たりのべ7時間のRSPピアサポートを実施した。 ・学生モニター制度を活用し、執行部が1～4年生およびRSP生の計14名と面談した。アンケートなどの統計には表れにくい学生の本音や要望を聞き取ることができた。実施後、これらの情報を教授会で共有した。 ・学生モニター制度によって、RSP生の中に就職・再就職を考えている者がいることがわかったため、その支援の可能性についてキャリアセンターと意見交換を行った。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	・執行部の自己評価で問題ない。
	改善のための提言	・改善が必要な点は見当たらない。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	学部長期構想に記された通り、「社会に開かれた学部」として社会貢献・社会連携をすすめ、学部の社会的責任（FSR）を果たす。
	年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動においてすでに活用している各種ツール・コンテンツのさらなる進化・拡充をはかる。 ○「オープンキャンパス」「トニカン」「出張授業」などをはじめとする社会連携や高大連携の企画をさらに展開するとともに、コロナ禍ではオンラインで行っていた企画を対面での実施へ戻してゆく。 ○各種団体との協定の見直し、拡充などを通じ社会連携科目の充実など社会連携の機会増を目指す。
	達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ○学部ホームページ ○広報活動実績 ○教授会議事録など各種会議議事録 ○その他社会連携イベント開催実績
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、模擬授業、フィールドスタディやキャリアチャレンジはすべて対面で実施することができた。 ・入学センター経由もしくは直接の依頼に応じて9つの高等学校で専任教員が模擬授業を実施した。 ・協定ならびに覚書に基づくゼミ、会議、調査活動、フィールドスタディ、キャリアチャレンジについて見直しを行った。 ・ドキュメンタリー映画の鑑賞、講義聴講、参加者同士のディスカッションなどで構成されるイベント「とにかく考えてみよう（トニカン）」は本年度は開催できなかった。 ・金藤ゼミがエコプロ2023に「企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン」のテーマで出展した。 ・法政大学・自由を生き抜く実践知大賞において、金藤ゼミが「社会の課題解決賞」を受賞した。衣類生産における残反についての活動が評価されての受賞である。 ・戦略構想推進委員会での新プロジェクトの提案を受け、社会連携活動補助の制度設計のためのパイロットケースとして、小島ゼミが「木で育む真鶴」と題するイベントを実施した。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部の自己評価で問題ない。 ・例年、トニカンを1、2回開催してきたが、本年度は開催できなかった。しかしながら、新たな社会連携プロジェクトの立ち上げの動きもあり、これまでに開催してきた学部主催イベントの全てを毎年完璧に消化することを目指すのではなく、状況に応じて柔軟に選択しながら実施することを考えてもよいだろう。

改善のための提言	・改善が必要な点は特に見当たらない。
【重点目標】	コロナ禍においては社会連携科目のいくつかで実施に影響が出たことから、感染症のような外的要因によるショックに柔軟に対応できるカリキュラムについて検討する。
【目標を達成するための施策等】	カリキュラム基本制度委員会においてカリキュラム改革案を検討し、その際、社会連携科目に関する各種委員会（FS/CC 委員会、人環セミナー企画委員会）等との協議調整を行う。また、本目標は限られた委員会のみではなく、学部全体での議論が欠かせないことから、適宜、戦略構想推進委員会や教授会に諮る。
【年度目標達成状況総括】	二つのカリキュラム改革案についてカリキュラム基本制度検討委員会にて協議と修正を重ね、それらの概要と狙いを戦略構想推進委員会で説明した。また、カリキュラム基本制度委員会が幹事となってコース別ミーティングを開催し、教員全員が3つのグループに分かれて参加した。両案の内容を教員全員で共有するとともに課題やアイデアを出し合い、カリキュラム改革へ向けて大きく前進したと言え、本年度の重点目標についてはおおむね達成できたと考える。 本年度初めての試みとして、フィールドスタディ/キャリアチャレンジ説明会ならびに研究会応募説明会を開催し、参加人数の多さや応募者数の増大から学生の学習意欲向上に効果があったと評価している。

IV 2024 年度中期目標・年度目標

評価基準	理念・目的
中期目標	学部長期構想に記載した理念・目的を確認する。
年度目標	コロナ禍後および今後起こりうる緊急事態を見据えての学部構想と具体的な戦略目標の見直しについて検討する。学部ホームページに記載された理念・目的・コース制の説明についての文章を再検討し、必要であれば修正する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・基本制度委員会、戦略構想推進委員会の適時適切な開催 ・学部長期構想文書の改定と公表(必要に応じて) (教授会議事録、各種会議議事録、学部 HP)
評価基準	内部質保証
中期目標	適正な PDCA サイクルの運営を継続する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検委員会（質保証委員会）を通じた内部質保証の運用を継続する。 ・特定の教員の過度な負担を避ける体制/業務方法作りの工夫を検討/実施する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・自己点検委員会（質保証委員会）の適時適切な開催（議事録） ・「ライフイベントに伴う配慮申請」の執行部による適切な運用 ・入試、フィールドスタディ/キャリアチャレンジ/フィールドワーク、広報活動の担当表
評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	学部長期構想に記載されたコアミッションに基づき、コロナ後、ウクライナ戦争後等の社会環境を踏まえつつ、持続可能な社会の構築に貢献するための教育を実践する。また、同じく長期構想にて定義された「教育におけるミッション」を踏まえ教育内容のさらなる改善をすすめる。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス流行・ウクライナ戦争後の一層複雑化した世界において、「持続可能な社会」の構築はさらに困難化する可能性がある。そのような課題に対応できるよう、学際学部の強みを活かし、専門分野のことなる複数教員の協働の機会の拡充をはかる。 ・社会連携科目については、コロナ禍後に規制が解除されたことを受け、単純に以前の状態に復帰するのではなく、オンライン方式など新しい可能性を組み込んだ教育内容/方法について検討する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・スリム化も視野に入れたカリキュラムの改革について検討する。戦略構想委員会、カリキュラム・基本制度委員会での議論（会議議事録） ・複数教員協働の機会実現（招待、セミナー開催、学部 25 周年記念事業、その他イベン

	ト等) ・社会連携科目に関する各種委員会等での議論とその結果の実施状況（各種会議議事録、イベント記録など）
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	持続可能な社会の構築に向けた「実践知」の修得のため、多様な主体と協働しつつ、主体性をもって学ぶ姿勢を強化する教育を推進する。
年度目標	対面・オンライン・ハイフレックス・オンデマンドなど各種の授業形態の長所短所を理解し、授業の内容や所与の条件に応じてそれらを柔軟に使い分ける事が可能な体制の構築をめざす。
達成指標	各教員の個別の工夫を発表し、学部内外のFDによる知見と合わせ、学部として共有する機会の確保（教員懇談会の開催など） ・学期末アンケートなどを通じたグッドプラクティス、トラブル事例の集積と共有 ・各種委員会等での議論とその結果の実施状況 ・フィールドスタディ説明会の開催 ・研究会個別相談会の開催
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	文理融合でありかつ特定の分野の枠に収まらない教育課程に対し、いかなる学習成果の把握、可視化の手法があるのか、グッドプラクティスを積み上げつつ体系化を目指す。
年度目標	学部の学際性に鑑み、学生が科目のそれぞれの特色に応じて学習成果を確認できるような指標・基準を提示できるように努める。
達成指標	・各種委員会等での議論とその結果の実施状況（特にカリキュラム・基本制度委員会議事録） ・具体的な成果把握の方法や工夫を教員が発表し共有する機会を確保する（教員懇談会の開催など） ・研究会修了論文・コース修了論文・プログラム修了論文タイトル一覧
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	2016年度に策定した入試戦略に基づき、18歳人口の減少を迎える2018年以降の社会環境において、定員超過に留意しつつ定員の充足に努める。
年度目標	・広報・社会連携活動により、学部ホームページ、Webパンフレット、動画、模擬授業、学部教員が執筆した叢書やブックレットの配布、イベント開催など各種の手法を駆使して、学部の魅力をさらに発信してゆく。 ・高大連携を推進する。 ・RSP、SCOPEの両プログラムについては、定員確保に一層留意する。
達成指標	・定員充足率、辞退者数（2024年度入試結果一覧） ・広報活動実績（学部HP、広報・社会連携委員会議事録） ・RSP、SCOPE志願者数、入試実績、相談会の実施
評価基準	教員・教員組織
中期目標	学部長期構想および学部人事戦略に基づき、適切な教員組織の維持を図る。また、持続的なFD活動を実施し、イノベーションの基盤の整備に努める。
年度目標	・2024年度中に、専任教員1名の採用をおこなう。その際、全体の人員バランスも考量した適切な採用に努める ・様々な授業形態を踏まえたFD活動は昨年度同様に継続する。 ・教員の負担の軽減／公平化に引き続き努める。
達成指標	・採用枠充足状況 ・FD活動実績 ・「ライフイベントに伴う配慮申請」の執行部による適切な運用
評価基準	学生支援
中期目標	多様な学生のニーズを念頭におき、学習支援、生活支援を組織的に実施する。
年度目標	・学習指導委員会を積極的に活用し、予防的な学生指導をおこなう。 ・RSP、SCOPE学生のピアサポートを引き続き実施する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜、各種研修を行う。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・成績不振学生面談の概要 ・教授会議事録 ・RSP オリエンテーションの開催 ・研修の実施
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	学部長期構想に記された通り、「社会に開かれた学部」として社会貢献・社会連携をすすめ、学部の社会的責任（FSR）を果たす。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・広報活動においてすでに活用している各種ツール・コンテンツのさらなる進化・拡充をはかる。 ・模擬授業、「トニカン」企画をはじめとする社会連携や高大連携をさらに展開する。 ・各種学部団体との協定の見直し、拡充などを通じ社会連携科目の充実など社会連携の機会増を目指す。 ・学部 25 周年記念事業を通し、卒業生との連携を改めて見直し、今後の協力体制を検討する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学部 HP ・広報活動実績 ・教授会議事録など各種会議事録 ・その他社会連携イベント開催実績
<p>【重点目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム改革について、実現可能性を考慮して具体的に進める。 ・コロナ禍で縮小を余儀なくされていたフィールドスタディ、キャリアチャレンジをコロナ禍前の開催状況に近づける。 ・多様な学生への対応や、より質の高い教育のために、特定の教員に過度な負担が課されている。負担の軽減と公平化に向けての検討が急務であり、最重要課題として検討する。 <p>【目標を達成するための施策等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部長期構想の必要に応じた見直しとカリキュラム改革に向けた議論を継続する。 ・教員間の協働の推進する。 ・教員の負担を可視化する。 	